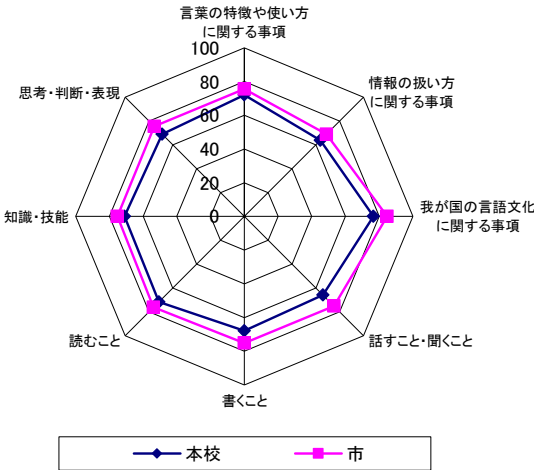


宇都宮市立陽南中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.1	75.6	66.5
	情報の扱い方に関する事項	63.8	69.0	62.0
	我が国の言語文化に関する事項	76.6	84.7	78.2
	話すこと・聞くこと	66.0	75.3	69.4
	書くこと	67.8	75.2	65.1
	読むこと	71.6	76.2	68.8
観点別	知識・技能	71.1	75.3	66.7
	思考・判断・表現	68.9	75.6	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

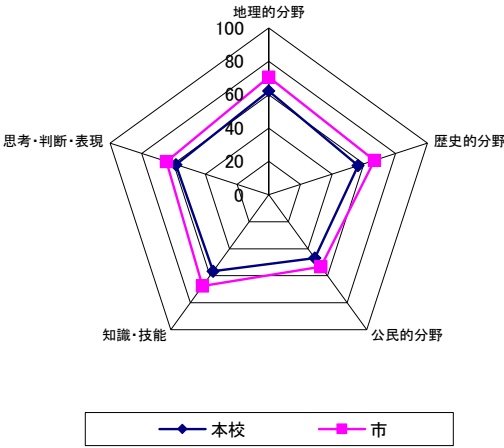
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は昨年より2.7%低く、市の平均より3.5%低い。 ○「危険」という漢字の書き取りは市の平均より3.4%高い。 ○対義語や助動詞についての理解が80%を上回っている。 ●漢字の読み書きで50%台の問題があり、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・1年生から年間を通して漢字の小テストを繰り返し行う。また、間違った漢字を練習することで、漢字の読み及び書きの力を身に付けさせる。 ・文法の問題では、1、2年生の既習事項をもとに、3年生では繰り返し練習問題を解き、その都度復習し、知識の定着に努め、問題に慣れるようにする。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は昨年より3.8%高く、市の平均より5.2%低い。 ●情報の関係について理解し、自分の考えを分かりやすく文章で表す問いが市の平均を約8%下回っている。	・情報を正しく理解し、必要なものを取捨選択できるよう、国語の時間のみならず、普段の生活からメディアに触れ、情報に対する自分の考えを持てるようにする。 ・文章を分かりやすく、表やグラフを使いノートに整理させる時間を設ける。よくまとまっているノートを紹介し、自分の理解の向上と他人に分かってもらうにはどう工夫したらよいかを知り、情報をまとめる力の定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は昨年より0.3%低く、市の平均より8.7%低い。 ●現代語訳を手掛かりに古典の内容を把握する問いの理解が市の平均を約8%下回っている。	・古典作品に対し、最初から苦手意識を持っている生徒がいるので、1年生の時から古典の言葉のリズムに慣れ、音読や暗唱に取り組み、歴史的仮名遣いの知識の定着を図る。 ・文法の問題では、1、2年生の既習事項をもとに、3年生では繰り返し練習問題を解き、その都度復習し、知識の定着に努め、文法の問題、古典の問題に慣れるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は昨年より14.5%低く、市の平均より9.3%低い。 ○話の展開を予測しながら聞く問題の正答率が80%を超えている。 ●自分の考えを明確にし、論理の展開を考えて表現する問いが市の平均を10%下回っている。	・聞き取りテストを定期的に行い、聞き取る中心を捉え、聞きながらメモを ・他教科でも、プレゼンテーションやグループでの発表をする機会を増やし、自分で話すこと、他の発表を聞くことに慣れる。 ・発表の機会が増えることで、分かりやすく話す能力や必要な情報を得る能力も身につくようにする。
書くこと	平均正答率は市の平均より7.4%低い。 ●自分の考えを明確にすること、わかりやすく伝えることを文章に表現することに課題が見られる。	・普段から読書や新聞など、様々なジャンルの文章に触れ、語彙を増やす。 ・文章を読み、自分なりの考えを持ち、それを文章に表現できるよう作文や小論文を書く学習を定期的に行う。 ・書いた文章を生徒同士で読み合う。その時に様々な角度から読むようにし、お互いに推敲し、評価や語句の正誤性を確認する時間を確保していく。
読むこと	平均正答率は昨年より6.8%高く、市の平均より4.6%低い。 ○文章の構成や論理の展開の仕方の評価についての問題、物語の展開の仕方を捉える問題は全国正答率を5%上回っている。 ●文章の表現の仕方について評価する問題の正答率が低く、課題が見られる。	・物語の文章を読んで、情景描写に着目しつつ、人物の発言や行動から登場人物の気持ちを理解するために、授業で話し合いをさせ、理解を深める活動をしていく。 ・説明的文章では、接続語や段落同士のつながりを意識させ、文章の要約する活動を行う。

宇都宮市立陽南中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.1	70.5	62.1
	歴史的分野	56.3	66.6	57.8
	公民的分野	46.9	53.3	45.2
観点別	知識・技能	56.6	67.6	59.2
	思考・判断・表現	58.5	64.5	55.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

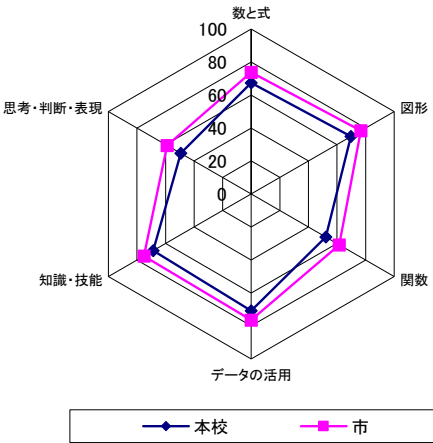
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	●正答率は市の平均を大きく下回っていて、世界の地域区分について、「オセアニア」と答える問題では、15ポイント以上低い。 ●日本の資源・エネルギーにかかわる課題について、資料をもとに考察し、記述で答える問題では、正答率が37.3%と市の平均より5.8ポイント低い。 ○日本の自然災害(地震)による被害について、選択して答える問題では正答率が89.4%で全設問中で最も高く、市の平均をわずかに上回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地図や雨温図などの資料を読み取る力を身に付けるために、ひとつひとつの資料から分かることを記述する時間や複数の資料を比較したり関連付けたりする時間を多く設定する。 ・初見の資料でも活用できる力を身に付けるために、授業では扱わなかった資料を単元テストで出題するなど、評価の仕方を工夫していく。 ・映像資料やタブレット端末を活用し、生徒が視覚的に学べる工夫をした授業を展開し、学習内容の定着を図っていく。
歴史的分野	○古墳時代までの正答率は市の平均を下回っているものの5～7割と他の設問より高い値を示している。 ●中世の日本の戦乱や人物や出来事を年代の古い順に並べ替える問題では、正答率が4割を下回っており、市の平均を10ポイント以上低い。 ●分野別の正答率で見ると、市の平均との差が10.3ポイントと最も大きい。	・歴史的分野における基礎的・基本的内容の定着を目指し、生徒の興味関心を高められるよう、教材研究を行い、授業を改善していく。 ・歴史的資料を読み取る機会や歴史上の出来事について自分で考えたことについて表現することで、資料の読み取りや記述の問題に慣れていく学習指導を進める。また、その手段としてタブレット端末を活用し、生徒が活動しやすい状況をつくっていく。
公民的分野	○市の平均を多く下回っているが正答率の差は6.4ポイントで、他の分野よりも小さい。 ○新しい人権が認められる背景について、記述で答える問題では、正答率が53.0%と市の平均をわずかに上回っており、全国平均より14.6ポイント高い。 ●公共の福祉について理解しているかを答える問題では、正答率が全設問中で最も低い28.8%市の平均を大きく下回っている。	・必要な知識を身に付けるだけでなく生徒の人権感覚を育成する上でも重要な分野であるため、生活と結びつく資料を提示し、模擬的に体験させることで生徒の興味関心を高めていく。 ・基礎知識の定着のために、生徒ひとりひとりの学習状況を把握し、支援を充実させる。 ・自分の言葉で表現させる問題について、記述する力を高められるよう、自分で考えるだけでなく、他者の考えも聞き、理解する学習活動を多く取り入れる。

宇都宮市立陽南中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	67.4	73.8	71.4
	図形	69.7	76.7	67.9
	関数	52.1	61.6	52.2
	データの活用	70.8	76.4	65.4
観点別	知識・技能	68.6	75.2	69.9
	思考・判断・表現	49.3	58.9	48.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

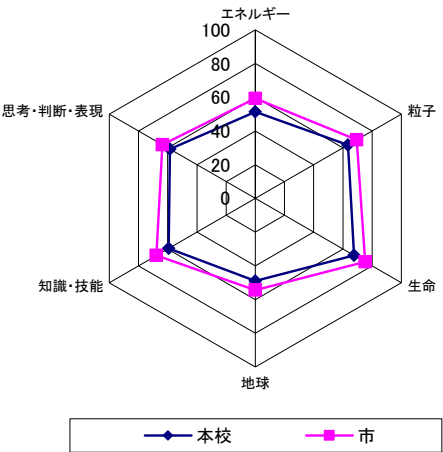
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	昨年度の調査結果と比べ、校内と市の平均正答率の差が大きい。 ○正負の数や1次式の四則計算を行う問題は、81%以上の正答率である。 ●根号を含む式の減法の問題では、市の平均正答率を11.3ポイント下回っている。 ●3学年の学習内容のポイントが、1・2学年に比べて低い。	・基本的な計算問題や公式を使った問題を繰り返し復習することを継続していくとともに、苦手意識のある根号を含んだ四則計算などの問題を解決する力を身に付けられるよう、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の充実を図る。 ・方程式を活用して数学的な事象を解決する問題場面では、文字式で表すことのよさや解の吟味の必要性について丁寧に扱い、数や文字式についての理解が深まるよう指導する。 ・ドリル的なタブレット学習を活用するなど個の定着度に応じた指導の充実を図る。
図形	正答率は参考値を上回っている。 ○作図以外の平面図形や空間図形について、正答率が高い。 ●2学年の角に関する内容について、基礎・基本の定着に課題がある。他の図形領域問題に比べ、市の平均値との差が大きい。	・図形に関する基礎知識や定理を丁寧に復習し、作図などの基礎問題や角の性質を用いた問題を繰り返し演習することで、基礎基本が定着するよう指導する。 ・図形の性質を捉えて解決を図る場合、どのような定理が使えるのかを考えさせる発問をし、既習事項を押さえながら着目点を明示していく。
関数	関数領域の問題は、他の領域と比べて市の平均正答率との差が大きい。 ●反比例や比例の関係を式に表す問題で、市の平均正答率との差が13%以上ある。 ●関数と図形が融合した問題では、全問題の中で正答率が一番低い。	・関数のグラフから式や表を表現する活動を繰り返し行い、2つの数量関係からできる式、表、グラフが相互に関連していることについて理解が深まるよう指導する。 ・興味関心が高まるような身近な問題から、関数の値の変化の仕方や特徴を捉え、言葉で説明するなど、授業展開を工夫する。 ・図形との融合問題などの発展問題では、視覚的に問題場면을捉え、座標上で図形としての数量を読み取り式を作る活動を積極的に取り入れる。
データの活用	データの活用領域の問題正答率は、他の領域と比べて市の平均正答率との差が小さい。 ○ヒストグラムの階級の度数を答える問題や、さいころを使用した確率の問題では、正答率が80%を上回っている。 ●ヒストグラムの特徴を読み取り説明する問題では、表現力に課題がある。	・図や具体的なデータの例を用いながら、度数分布表やヒストグラムなど、基本的なデータに関する知識を身に付けられるよう丁寧に指導する。 ・興味関心が高まるような身近な問題から、データの特徴を言葉で説明する活動を積極的に取り入れ、データを分析し活用する力を高めるよう指導する。

宇都宮市立陽南中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	51.4	59.3	62.1
	粒子	63.5	69.5	66.8
	生命	67.6	75.2	70.9
	地球	48.9	54.4	52.0
観点別	知識・技能	59.3	67.7	67.2
	思考・判断・表現	58.4	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ○物体の運動については、ほぼ市の平均と変わらない正答率となっている。 ●光の性質では、全ての問題で、市の平均より10ポイント以上も低い。 ●磁力線についても、市の平均より10ポイント以上低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・光の性質では、日常生活の中で理科を意識していけるように、興味関心を高めていく。理科の問題と日常を関連付けられれば良い。 ・文章から読み取る力を身に付けさせたい。普段の授業から、自分の考えを発表したり、考察を考える習慣をつける。
粒子	平均正答率は、市の平均より低い。 ○塩化銅水溶液の電気分解で、電極のようすを問うものは、市の平均より2.5ポイント高くなっている。 ○「分解」への理解は、市の平均より低い、8割以上は理解している。 ○酸化銀の分解は、市の平均とほぼ同じである。 ●化学反応式の記述や電離についての問題は、市の平均より10ポイント以上低い。	・化学の分野は特に、1年生からの継続的学習になるので、学習の積み重ねを大切にしたい。また、復習する習慣を身に付けさせたい。 ・電離などの目に見えない化学変化などは、視覚化していくことで、理解させたい。
生命	平均正答率は、市の平均より低い。 ○植物の生える条件や受精については、市の平均よりも高い。 ●植物の根のつくりや心臓のはたらき、減数分裂、有性生殖は、市の平均より10ポイント以上低い。他の領域と比べても、市の平均より明らかに正答率が低い単元が多い。	・植物や動物の様々なはたらきは、日常生活の中で見えたり、感じることに對して疑問を持つことで、より興味関心を持って、学習に臨める。総合的に理解の向上を目指す。
地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ○ポンプを動かして、水がくみ上げられた理由は、ほぼ市の平均と同じであった。 ○大気圧に関しては、市の平均よりも低い、8割以上は理解している。 ●深成岩のでき方は、市の平均よりほぼ10ポイント低い。	・火山の噴火や火成岩については、実物や映像を交えながら、視覚的効果を用いて、理解の向上を目指す。 ・大気圧は、無意識だが自分の周囲で起きていることなので、モデル実験などの方法を工夫して、理解の向上を目指す。

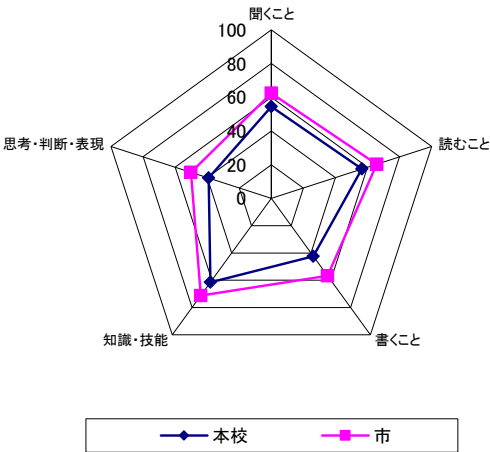


宇都宮市立陽南中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	54.5	62.4	59.8
	読むこと	56.5	65.7	58.5
	書くこと	42.3	56.8	43.5
観点別	知識・技能	61.5	71.2	65.3
	思考・判断・表現	39.1	50.1	40.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○英文を聞き、その内容を理解して英文の内容にあう絵を選ぶ問題の正答率は80%を超えるものがあった。 ●英文を聞き取り、概要や要点を捉えて答える問題の正答率が20%～30%で、市の正答率より10ポイント低いものもある。	・英文を集中して「聞く」習慣を身につけさせることが大切である。 ・単語や本文、友達との会話や発表等、普段の授業中に英語を聞く習慣づけをしていく。 ・英文を聞いて、概要を捉えたり、何を聞かれていて、どのように答えるのかを教科書やワークを使いながら練習をしていく。 ・聞いた情報を基に考える問題が苦手なため、練習していく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ○対話文を読み、適切な語を選ぶ問題の正答率は80%を超えるものがあった。 ●対話文を読み、文構造や文法事項を理解する問題の正答率が市の正答率より7～10ポイント低い。 ●メールを読み、その内容を理解する問題の正答率は、市の正答率より10～12ポイント低い。	・基本的な文法事項の確認や復習をする必要がある。 ・教科書の本文を聞いて概要をつかむ練習を積み重ねていく。そのためには単語や既習文法の理解が必要であるので、くり返し確認しながら読む力を身に付けさせる。 ・本文の中の代名詞が誰(どれ)を指しているのか、意識しながら読む練習をしていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を下回っている。 ●単語の並べかえによる英作文問題の正答率は、市の正答率よりも8～18ポイント低い。 ●場面に応じた対話文の英作文問題の正答率は、市の正答率よりも、10～13ポイント低い。 ●3文以上の英作文問題で、自分の考えや意見を相手に伝えるように書く正答率が35.3%で、市の正答率より18ポイント低い。	・教科書の音読やワークの並べ替え問題を繰り返し練習することにより、文の構造を理解していく必要がある。 ・既習文法や既習単語・熟語を使い、自分のことを表現していく活動を単元のまとめ等で実践していく。

## 宇都宮市立陽南中学校

### 学力向上に向けた学校全体での取組

#### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習意欲・主体性の向上 ・基礎・基本の確実な習得	・グループ学習や、学習したことを基に考えを深める学習や、協働する力の育成を行う。 ・教科内で教科担任が授業内容の共有や授業を見せ合う。 ・自主学習ノートの実施など家庭学習を促す。	・グループで課題に積極的に取り組む生徒が多く、学習意欲もあった。思考を深める課題に対しては、自分の言葉で表現するのが難しい生徒もいた。 ・自主学習ノートは、毎日提出することになっているが、個人差が大きいのが現状だった。
・情報活用能力と育成とデジタル・シティズンシップ教育の充実	・AIドリルによる学校や家庭での実施。 ・一人一台端末の活用を授業で取り入れる。	・授業中や、宿題の課題としてAIドリルを活用することができた。 ・スライドを作りプレゼンテーションしたり、アプリを使って、実験を行ったり、各教科で実施できた。

#### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・全ての教科において、市平均正答率より校内平均正答率が低い。前年度の校内正答率よりも低い。特に英語の正答率度数分布では、二極化が見られる。学習態度や学習意欲に差があることも現実である。

・今後も、基礎・基本の定着を指導の基本としていく。話を集中して聞くことがまず学習の基本であることを理解させる。グループ学習を積極的に取り組む生徒が多いため、生徒が興味関心を持てる課題の工夫をする。学び合いを通して、誰一人取り残さない学習を目指し、「できた」「わかった」という小さな成功体験を積み重ねていく。また、思考を深める活動を取り入れ、授業の中で、習った知識を使って考える学習を各教科で取り入れていく。

・AIドリルを有効活用することで家庭学習の充実を図っていく。